

杉森会長 記者会見 発言要旨

(2022年6月22日)

1. 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」と「骨太の方針 2022」

今月7日、政府は「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」と「骨太の方針 2022」を閣議決定した。GX(グリーントランスフォーメーション)に向けて、今後10年間に官民で150兆円超の投資を実現するために、年内中に具体的なロードマップを示し、新設する「GX 実行会議」で検討を進める方針が示されたことを評価している。骨太の方針では「脱炭素社会の実現に向けた官民連携の取組を一気に加速し、エネルギー安全保障に万全を期しながら、新たな成長のフロンティアを開拓する」とあるが、石油業界としても「合成燃料・SAF」、「水素・アンモニア」、「CCS」等、カーボンニュートラルに向けた取り組みに挑戦し、新しい資本主義の実現に貢献していく所存である。政府においても早急に支援措置を講じていただくようお願いしたい。

2. GXリーグ

今月10日、経済産業省は「GXリーグ」を発足させた。同リーグは440社が賛同を表明し、石油連盟加盟企業も3社が賛同している。今後予定される実証事業等を通じて、炭素を削減する取り組みが幅広く価値として評価されるよう、取引スキームの検討が進むことを期待している。

3. 令和5年度税制改正要望

本日、令和5年度税制改正要望を取りまとめた。炭素税等を含む「石油諸税の更なる増税の反対」、自動車用燃料・エネルギーに対する「課税の公平性確保」等を重要事項に挙げている。また、カーボンニュートラルに向けてはSAFに関する税制要望を新規に取りまとめた。今後、石油連盟として要望活動を展開していくので皆様のご理解とご支援をお願いしたい。

4. 原油価格は向こう1か月110ドル台を中心に荒い値動きを予想

ドバイ原油価格は5月前半の1バレルあたり105ドル前後から、月末には116ドルまで上昇した。5月下旬からの米国のドライブシーズン本格化や、上海市が6月からの都市封鎖解除を発表したことでさらなる需要増加の観測が強まったことに加え、5月30日にはEUがロシア産石油の禁輸について合意に至ったことから、供給面においても上昇圧力が強まった。

その後、6月2日開催のOPECプラス会合に先立ち、ロシアを石油生産協定から除外する案や、サウジアラビアによる増産の検討が報じられたことにより、供給増の懸念から108ドルまで軟化した。しかし、実際に会合で決定された減産幅縮小の前倒しはロシアの供給減を穴埋めするには不十分と市場で受け止められ、イラン核合意の再建に進展がないことや、中国の需要回復への期待も相まって119ドルまで上昇した。しかし、足元は米国FRBをはじめとした主要国の中央銀行が金融引き締め政策を推進していることにより景気減速が懸念され112ドルとなっている。

今後のマーケットに影響を及ぼす材料として、ロシアへの経済制裁の動向、今後の世界経済見通し、次回OPECプラス会合やバイデン大統領のサウジアラビア訪問での議論内容、の3点に注目したい。結論として、原油価格は当面(向こう1か月)110ドル前後を中心に荒い値動きが想定される。ただし、中国の都市封鎖再導入や世界的なインフレの加速による世界経済のさらなる減速懸念等があれば下落、ロシアへの経済制裁の実効性がより顕著になれば更なる上昇の可能性もあると考える。

以上